



# いちげ 一夏会報

司書・司書補講習を修了された皆さん、今回の講習はいかがでしたでしょうか。二箇月にわたって、猛暑が続いた一夏を講習に明け暮れた皆さんのご努力には感服します。よき師よき友との出会いなど、一定の資格の取得に勝る「何か」を得られた方々も多いのではないのでしょうか。まずは、その無事円成を心よりお祝い申し上げます。

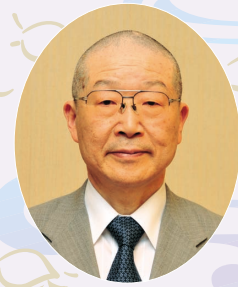
さて、図書館は、少し前まではおおむね、利用者が望む書籍、雑誌、新聞などの文字資料を用意し、彼らがそれぞれに読書するための場所を一定程度準備してサービスすればよかったです。考慮すべき問題は、どれだけ多くの蔵書を揃えるか、どれだけゆつたりと読書できる場所を確保す

るか、利用者に対してどれだけスムーズにサービスを提供できるかといったことであつたと思えます。しかし、この状況は大きく変わってきました。まず、用意すべきものとして、新たに映像資料や電子書籍が加わりました。このことに対応する諸設備も必要となりました。また、利用者の利用の仕方も様変わりしてきました。伝統的な自習のスタイルよりもグループ学習を好む人たちが増え、閲覧場所のセグメント化が求められています。さらに、グループ学習の常態化や拡大に応じて、飲み物の持ち込みなども考慮の対象となってきました。

このような状況の中で、図書館をどう変えていくかは、いずれの図書館でも、また図書館をもつ大学等の研究・教育機関でも、いま最大の課題の一つだといってよいでしょう。しかしながら、よく考えてみると、図書館の使命は単に社会のニーズや学生の志向に合わせることでだけではないはず。良好な図書・映像資料等を置いて、人々にそれらの活用を促したり、書籍の面白さやそれらがもつ固有の文化的意義をアピールする展示会を開いて人々の向学心を刺激するなどして、自らが主体的に社会全体の知力や品性を高める工夫をしていくことも、大きな役割ではないでしょうか。

このことに関連して、これから本格的に図書業務に携わろうとされている皆さんにお願いしたいことがあります。それは、まず何よりも「本に親しむ」という習慣を誰もが小さなときからもてるよう、それぞれの立場で努力してほしい、ということ。もちろん、本にはいろいろあります。しかし、さしあたっては「何でもいい」のではないのでしょうか。大胆で大雑把な言い方ですが、何でもいいから、文字で表現されていて一定のストーリーがあるものを読むということは、自らの直接的な経験・体験を通じて学ぶことと並んで、知識の源泉です。そして、これら両者が交錯するところから知識は深まり、またそこから知恵も出てくるように思えるのです。私自身のことでは、小学校の高学年のころから、時間があるときに、父の書棚

にたくさん並んでいた講談本や時代小説を手当たり次第に読んだことが、どれほど後に役立ったか分かりません。いま日本では、子供たちは忙しすぎて、「教科書や受験問題集以外の本は読まない」ともいわれま



鶴見大学学長  
木村 清孝

## 「本に親しむ」ということ

# 懸念 コンピュータ検索への



鶴見大学司書・  
司書補講習主任教授  
岡田 靖

んと申しましてもアプリケーション（ワープロソフトや表計算ソフト）の達人になる、あるいはプログラムを組めるようになれというわけではありません。キーボードが打てる事が出来れば充分だと思います。

私はこのキー・ボードを打つという事が重要だと思っております。世の中では現代の若者は皆パソコンに通じているかのように言われています。しかし、私の経験ではキー・ボードを打つ事ができる若者（私が接している大学生諸君）はまだ少数で、ほとんどがマウスを使用してインターネットを利用する事が多いようです。もちろんネット利用が悪いという事ではありません。ただコンピュータの使用はネット利用だけではないという事です。

しかし、昨今ではコンピュータというとインターネットを含めたコンピュータ検索が中心となっており、たしかにコンピュータ検索は便利で

す。私も頻繁に利用しております。但し、あまりコンピュータ検索に頼りすぎますといろいろな弊害が生じます。一昔前は、ワープロを使用するようになって字を書けなくなるといふ事が言われていました。確かにそのような現象は現れているようです。それ以上に危惧されるのがコンピュータ検索に頼りすぎるあまりに、辞書などの利用がで

きなくなっている若者が多くなっている事です。検索窓に知りたい事項を入力して（ここで若干キ

ー・ボードを打つようですが）エンター・キーを押せば必要な事項が表示されてきます。コンピ

ュータ検索には順序性は関係ありません。これに慣れるあまりにアルファベ

ット順や五十音順に並んでいるものからの検索が出来なくなってきたというのが現状です。これは単

に検索時の問題だけではなく、物事を順序立てて

考えるという事が出来なくなってきたという事にもつながってきてい

るのではという危惧の念を持つております。図書館においても、ほとんどがコンピュータ検索とな

ってきております。この様な図書館の現場で、利用者である若者に順序立

てて物事を考える事を、いかにして身に付けても

らうかが今後の図書館における重大な課題ではないかと考えております。

本学の講習に起きましてもコンピュータ検索に関する授業は重要な位置

を占めております。しかし、重要であると同時に

そのような問題があるのだという事を忘れないよ

うにしてください。それと共にこの暑い夏を過ご

した講習の事もお忘れ無

いようにお願いいたします。そして、いつかお会

いした時には、この特別暑かった2010年の講習を話題に一杯やろう

ではありませんか。

記録的猛暑のこの夏を乗り切り、無事？に講習終了おめでとうございませ。皆様がこの一夏会報をお読みになつている頃は、晩秋か初冬の気配がしている事でしょう。というよりも、そうあってほしいと思つております。何故ならば、講習係の諸君から原稿の催促を（期限はとつくに過ぎています）受けながらこの原稿を書いている現在（9月21日）の東京は、

天気予報では今日も真夏日になりそうとの事です。いったい何時まで続くこの暑さかなという感じがしております。ここ

同じことを書いたような気がしております。という事は昨年もまだまだ暑かつたのでしょうか。それでも今年の暑さは特別のようです。皆様がこの暑さを克服されたのは、大変な努力のためのものでしょう。又私が原稿の期限を守らないのは今年に、あるいは一夏会報に限ったことではない、常習犯であるのかもしれない。

私が開講式のご挨拶で、かなり強調してパソコンの初心者講習を受けてくださいと申し上げたからか？多くの講習生の方に初心者講習を受けていただきました。例年で

すと最後の頃は半数くらいに減ってしまうのですが、今年は最後までOA研修室がほぼ満室の状態でした。その結果パソコンを使用する授業では例年ほどはパソコンで苦勞なさつた方は少なかったと聞いております。これは初心者講習を受け持つ私としては大変うれしい事です。たしかに図書館の世界においては（現在では図書館の世界

だけではないかもしれませんが、実は日常業務にコンピュータを導入したのは図書館の世界は他の分野よりかなり早かつたのです）コンピュータは避けて通る事はできません。

# 出会った縁を大切に



東海大学  
准教授  
森 智彦

32年前、私たちは図書館短期大学の別科に入学しました。別科は1年制で、大学を卒業した者が入学でき、修了すれば司書資格を取得することができました。同期は39名で、大半が修了後に図書館に就職しました。

その図書館短大でも印象に残る教員がいまもいます。若き日の岡田靖先生です。岡田先生には、資料組織演習(分類)を習いましたが、印象に残ったのは昼休みや放課後にソフトボールやランニングなどをしていただいていた。また、面倒見がよく、学生が飲み会などがあるとつきあってくれま

した。もともと、私たちの同期には酒に強い者が少なく、岡田先生の相手を十分つとめたとはいえないませんでした。

こうした縁で、私は10数年前から鶴見大学の司書講習のお手伝いをしてまいりました。それぞれどうか、昔の職場で司書課程がなくなり、転職を考へなければならぬ時に、相談にのってくれた上に、就職先まで紹介してくれました。別科にいた頃には、修了後に岡田先生からこんなにお世話になるとは思ってもいませんでしたので、縁とは不思議なものです。

ところで、当時の同期がどうなったかといいますが、横浜市や名古屋市の国立大学など一応司書職に就職した者は、数名を残し図書館外への異動を経験しています。教育委員会や情報センターなど図書館と関連する部署に異動になった者もいれば、総務、監査など図書館とあまり関係ない部署に異動したものもいます。図書館に就職するの

も大変ですが、ずっと図書館に勤め続けるのも大変です。こうした中で、私たちは必要に応じて連絡を取り合い、助け合ってきました。

した。2年前に、北海道にいる同期から電話がかかってきました。この同期は神奈川県立の学校図書館に勤務していましたが、夫君の転勤で北海道に引っ越し、公立図書館などでアルバイトをしていました。これまでの経歴を認められたようで、医科大学の図書館に専任職員として採用されたので、医学図書館について勉強したいとの相談でした。このように30年前の縁が今もまだ続いています。

皆さんは、一夏の縁ということになりましたが、岡田先生をはじめとする先生方や、同期との縁を大切にしてください。その後、別科は図書館情報大学で専攻科と名称を変え、1984年に廃止になりました。編入制度や修士課程ができたのが廃止の理由ですが、当時の筑波の交通環境もあり、最後の2年間は10名以下の在籍学生しかいなかったのも廃止の理由かもしれません。廃止はとも残念なことでした。

なぜならば、アメリカの図書館情報学教育は修士課程の1年制(1年で修了するのはかなりハード)がほとんどですが、別科や専攻科はアメリカの図書館情報学教育に相当するといえたからです。私の同期でも、大学で司書資格を取得しながら別科にきた者もいます。1年後輩には、司書講習をすでに受講した者が3名もいましたが、その内2名は鶴見の講習でした。別科・専攻科は1年制の実務大学院として機能していたのです。

筑波大学の情報学群や図書館情報メディア研究科には、編入制度や修士課程があります。いずれも修了まで2年かかるので、図書館に是非勤めたいのなら進学してみたらと気楽には勧めることはできません。それでも、図書館情報学に強い興味があっても、もう少し勉強する気があり、かつ経済的余裕がある方は進学を考えてみてください。また、筑波大学や慶応大学では社会人向けの夜間大学院もあるので、図書館の現場に勤めている方も、スキルアップを目指し、いずれトライしてみてください。



# 生涯学習のすすめ



相模女子大学  
講師  
浅野 志津子

ブログで「ちっちゃな種まき」をしていきたいとあり、教育基本法の理念のひとつの実例に接する思いでした。

私自身も生涯学習と深い関わりをもった人生を歩んできました。大学卒業後、英語の教員を経て個人塾で長年教えていました。生徒を志望校に合格させるのは上手になりましたが、受験勉強だけでは英語を忘れてしまうのではなく、社会にでてから英語が使えるように勉強し続けて欲しいと願

い、生徒の心をもっとよく理解するために教育心理を勉強したいと思いついた。塾を主宰していたので、どうせなら難関大学にしようと思い、東京大学に照準を合わせました。当時の後期日程の試験はセンター試験プラス論文試験でしたから、予備校の論文対策講座に通

いました。なにしろ、若い頃の大学時代は英文科で、レポートや卒論は全部英語でしたし、その後

の家庭の主婦の立場では論文を書くなどの経験は

なかったのです。最初は、講師からのコメントに「段落をつけなさい」とか「自分の考えを書きなさい」とかあり、お先真つ暗でしたが、数年後には大手予備校の模擬試験で全国一位となるぐらい上達しました。

高校生と一緒に受験し、めでたく東大に入学できたのは47歳のときでした。ちなみに大学院に進学してからの研究テーマは生涯学習参加のための学習動機づけです。この経験から分かったことは、論述試験には慣れが必要だということです。

今回の司書・司書補の講習でうまく記述できなかったとしても落ち込まないで下さい。また、年齢を不安要素にしないで下さい。確かに年とともに記憶などの能率は落ちるかもしれませんが、思考力や努力で十分カバーできます。

司書・司書補の講習に参加された皆様はこの夏の講習での充実した日々が遠のき、以前の日常生活にもどられていることでしょうか。ですが、講習の前と後では知的な力と人間としての幅が確実に大きくなっていることと思います。

私は司書補の講習で「生涯学習概論」を担当しました。生涯学習は社会人の学びだけでなく、生まれてから死ぬまで（最近では胎児も学習していることが分かっています）の学習を指し、学校での学習、社会での意図的・組織的な学習は言

うまでもなく、スポーツ・趣味・文化活動・ボランティア活動などの中の学習も含まれます。平成18年に教育基本法が約60年ぶりに改訂され、第3条で「生涯学習の理念」が新たに規定されました。ここでは「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と述べられています。学習の成果をどう社会で活用していくか

味・図書館のカウンター・

という社会的システムが整備されているとは限らないこと、また組織的な生涯学習に参加するためには多くの場合時間・費用のコストがかかることなどが難点としてあるものの、受講生の皆さんが夏の2ヶ月間学んだことは図書館で、あるいは学校で、あるいは家庭で生かすことができ、また、今後の豊かな人生につながると思います。閉講式・懇親会で再会した受講生からいただいたメールに、司書補講習での学びは、いろんな意味で豊かな気持ちにさせてもらえたこと、今後は趣味・図書館のカウンター・

大人になってからの学びは目的があるため得るものが多く、視野が広がり、学習の過程ではさまざまな出会いがあり、楽しいものです。豊かな人間性を含めた総合的な知識の拠点としての図書館をはじめ、社会のさまざまなところで生涯学習を行なう人が、よりよい援助を行なうことができるように、前を向いてこれからも学んでいきましょう。

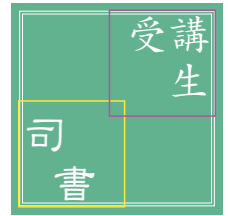
大人になってからの学びは目的があるため得るものが多く、視野が広がり、学習の過程ではさまざまな出会いがあり、楽しいものです。豊かな人間性を含めた総合的な知識の拠点としての図書館をはじめ、社会のさまざまなところで生涯学習を行なう人が、よりよい援助を行なうことができるように、前を向いてこれからも学んでいきましょう。

大人になってからの学びは目的があるため得るものが多く、視野が広がり、学習の過程ではさまざまな出会いがあり、楽しいものです。豊かな人間性を含めた総合的な知識の拠点としての図書館をはじめ、社会のさまざまなところで生涯学習を行なう人が、よりよい援助を行なうことができるように、前を向いてこれからも学んでいきましょう。

大人になってからの学びは目的があるため得るものが多く、視野が広がり、学習の過程ではさまざまな出会いがあり、楽しいものです。豊かな人間性を含めた総合的な知識の拠点としての図書館をはじめ、社会のさまざまなところで生涯学習を行なう人が、よりよい援助を行なうことができるように、前を向いてこれからも学んでいきましょう。

大人になってからの学びは目的があるため得るものが多く、視野が広がり、学習の過程ではさまざまな出会いがあり、楽しいものです。豊かな人間性を含めた総合的な知識の拠点としての図書館をはじめ、社会のさまざまなところで生涯学習を行なう人が、よりよい援助を行なうことができるように、前を向いてこれからも学んでいきましょう。





### ライブライアン・スピリット 恒川 恵

大学職員となって5年目の春、学長から図書館への異動内示と司書資格取得の指令。早速、情報検索すると、鶴見大学が自宅から近く、伝統もあるということで出願。

こうして実務経験わずか3

カ月、悲壮な決意のもと、私のチャレンジが始まりました。

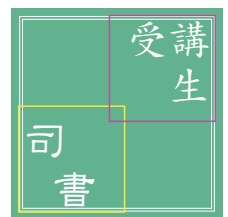
図書館を大学の一部門としてのみ捉えていた私は、公共図書館だけでも全国で三千以上あり、多様なサービスが提供されていること、それを支えるライブライアン達が日本はもちろん、世界的な規模で連携していること、ここに至るまで先人たちの大変な努力の積み重ねがあったこと等々、図書館が巨大な社会システムであることを再認識。また、講義を下さる先生方は個性溢れ、今度はどうな先生だろう、と楽しみました。それが図書や図書

館に対する強烈な思い入れ、愛情があること。これがライブライアン・スピリットか！そして、我々受講生にも徐々に同じような雰囲気醸し出され、心地よい連帯感が生まれてきたのです。

このライブライアン・スピリットなるもの、本当に身につくかどうかは、私たちの今後の努力にかかっています。ひとつの事は小さくても、日本全国、世界全体では、人類の知的資産を蓄積・再生産していく大きな流れを形成していることを忘れず、精進したいと思

話は変わりますが、私は中年過ぎてからバイクの大型免許を取得し、現在は954ccのバイク（ホンダCBR954RR）に乗る「おやじライダー」です。安全第一、でも出せるときはかっ飛ばす、というのが掟で、何といても風を切る爽快感が魅力ですが、もう一つ、ライダー同士の連帯感が何とも心地よい。すれ違うときの目線、挨拶、そして、転倒など困ったときは見知らぬもの同士でもすぐに助け合う、いわゆるライダー・スピリット。

今回、ライブライアン・スピリットに同じような心意気を感じたのです。このライブラリアン・スピリットなるもの、本当に身につくかどうかは、私たちの今後の努力にかかっています。ひとつの事は小さくても、日本全国、世界全体では、人類の知的資産を蓄積・再生産していく大きな流れを形成していることを忘れず、精進したいと思



### お疲れさまでした 郷原 枝里子

今年の夏は、30年に1度の異常気象だったそうです。本当に暑かった。「365日中350日風邪をひいている女」の異名を持つわたしが、この異常気象まっただなかの2ヶ月間、体調を崩さなかったのは奇跡でした。気を張っていたんですね。そりゃそうです、泣いても笑ってもこの2ヶ月ですべて決まってしまうんですもの。でもこれを書きながら、あの授業の単位は取れていないにちがいない、司書資格取れないかもしれないのにこんな「無事、卒業」的なコラムなんか書いちゃって一生の恥になるにちがいないと、胸中は重いです。筆もちょっと進みません。来年どんな顔してまた通えばいいのでしょうか。

ともかく、今年この講習を受けて、私はやっと司書としての第一歩を踏み出し

今年度の夏は、30年に1度の異常気象だったそうです。本当に暑かった。「365日中350日風邪をひいている女」の異名を持つわたしが、この異常気象まっただなかの2ヶ月間、体調を崩さなかったのは奇跡でした。気を張っていたんですね。そりゃそうです、泣いても笑ってもこの2ヶ月ですべて決まってしまうんですもの。でもこれを書きながら、あの授業の単位は取れていないにちがいない、司書資格取れないかもしれないのにこんな「無事、卒業」的なコラムなんか書いちゃって一生の恥になるにちがいないと、胸中は重いです。筆もちょっと進みません。来年どんな顔してまた通えばいいのでしょうか。

た気がしています。図書館を利用すると、「ここはこうやって表示してるんだ」とか、「うちの図書館でも真似しよう」なんて、一丁前にそんな目線で見ている自分がいたりして。まったくの素人だった私でも、講習が終わるころには意識は完全に司書になっていくくらい、ほんとうに根っここのところから学ばせていただきました。「私たちが行うことはすべてサービス」、「二度、なか」の目線を持つてしまうと、もう利用者

だけれど、この講習を受けることができて本当に良かったです。先生方のことば、きつとずつと忘れません。そして、4日間であれだけのレファレンスブックを探しまわり読み漁ったレファレンスサービ

「二度、なか」の目線を持つてしまうと、もう利用者目線には戻れない。確かに、けれど言われなかったら意識しなかったようなこと、つい薄れがちなこと、もせつたいに忘れてはいけないこと—知識だけじゃなく、そういうこともたくさん吸収させてもらいました。

大変でした。でも楽しかった。熱心な皆さまと一緒にまなぶことができて、とてもいい刺激を受けられて、本当に勉強になりました。最後にになりましたが、鶴見大学の、クラスの、先生のみなさま、楽しい学生生活を本当にありがとうございました！

講 生 受

補 司 書



ともにすごした熱い夏

竹内 博美

やつとスタートラインに立てると思ったのは、今年6月のこと。人気の高い鶴見大学夏季講習の受講通知をいただいたときは、資格取得に対する私のモチベーションが更に上がりました。一般企業で勤めたあと、縁あって公共図書館で仕事をするようになり、毎日が忙しくあつという間に月日がたつていました。今年から大学図書館で勤務することになり、今のままでいいけないと受講を決意しました。

講義を受けて、まず感じたことは日頃使っている端末の先には膨大な情報があり、私たちはそれを駆使してレファレンスサービスをするとということ、それには柔軟な発想と広い視野が必要であるということ。そして日本のみならず世界各国の図書館が電子化した書籍を、インターネットを

通して読むことができるネットワークが進んでおり、図書館の置かれている状況は予想以上に変化していることも感じました。

貴重な体験として、江戸時代の古典書資料を実際手にとって、本の装丁や内容を調べる書誌学の講座がとても印象深かったです。古典書の内容がどうしても知りたくて、講座の夏季休業日に国立国会図書館まで調べに行きました。

また、OA室で情報検索の演習をしたり、図書館でのレファレンスサービ業務の事例として、それぞれが課題に取り組んだりして時間を忘れて没頭したこともありました。それから著作権法も学びました。どれも教えてくださる先生の熱意が伝わり刺激的で、私自身熱い思いに満たされまし

た。充実した内容にたくさん

になりながらも、ついていくことができたのは、同じ教室で受講した仲間との連帯感、先生方の励まし、そしてお世話をしてくださった鶴見大学の皆様のお力添えがあったからこそだと思います。

それから早く送り出してきて職場の方々や協力してくれた家族にも深く感謝をしています。どうも有難うございました。

情報伝達機関としての役割を担っている図書館で、私自身が利用者にもどのように情報を提供していただけるのだろうかと考えながら、これからも日々研鑽してまいります。

講 生 受

補 司 書



楽しかった司書補講習

牧瀬 まさ子

私は、念願叶って、この4月に以前勤務していた公共図書館に復帰することができましたが、未だ司書資格は持っていないませんでした。当時は児童サービ担当で、夏は児童向けの事業が多忙だったこともありましたが、何よりも取れる自信がなかったのです。

今回、図書館に戻ることができ、改めて基礎から学びたいと思い、上司や同僚も背中を押してくれたこともあり、遂に受講する決心をしました。しかし、受講する前は、年齢的にも能力的にも、私が授業についていけるだろうかと不安でいっぱいでした。

ところが、いざ始まってみると、「生涯学習」の授業の初日から、先生の体験談を交えた興味深いお話にとても引き込まれてしまいい、気がつくとなつという

間に一日が終わってしまいました。その後も、それぞれ個性的で素晴らしい先生方が、図書館での経験に基づいたお話を、時には厳しく、時にはユーモアを交えながら、初心者にもわかりやすく丁寧に教えてくださったお陰で、とても楽しく学ぶことが出来ました。主人に驚かれる程、こんなに熱心に勉強したのは、久しぶりでした。とても充実した毎日でした。

同じ教室に通う仲間とも、勉強が進むにつれ、先生に「まとまりがあるクラス」と言われるほど不思議な連帯感が生まれ、一緒に食事したり、帰りに大学図書館で勉強したり、お互いに助けあい励ましあったお蔭で、暑い夏も休まず乗り切ることが出来ました。講習の終わりに別れが辛くなるほど、素敵な人達と出会

えたこの夏は一生忘れないでしょう。今後も、更に勉強を続け、先生方に教わった「図書館員は笑顔」として重要な「コミュニケーション力」を磨き、図書館員として自己研鑽していきたいと思っています。

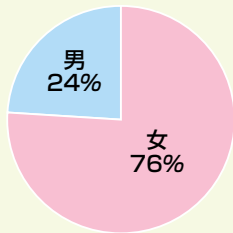
最後に、先生方をはじめ、事務局の方、警備の方、お掃除の方、支えてくれた家族、「あとでは任せて」と激励のメッセージで送り出してくれた図書館の仲間たち、そして同じ教室でもともに過ごした素敵な仲間たち、全てに感謝です。本当にありがとうございました。

# アンケート

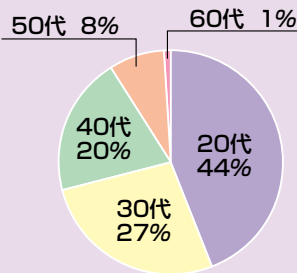
## ◆平成22年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=148名/158名)

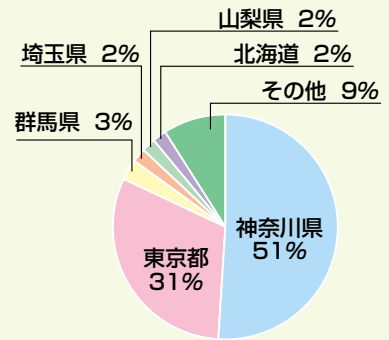
### 男女別データ



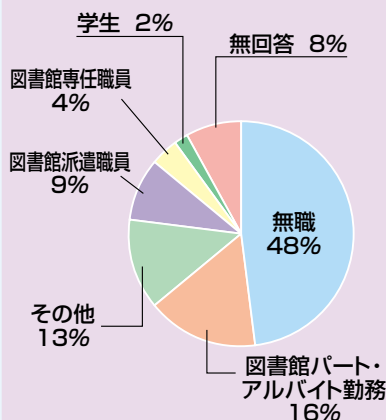
### 年齢別データ



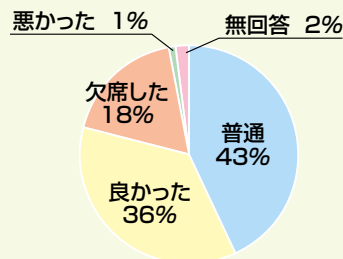
### 出身県別データ



### 職業別データ



### 特別講演会について



#### ●主な理由

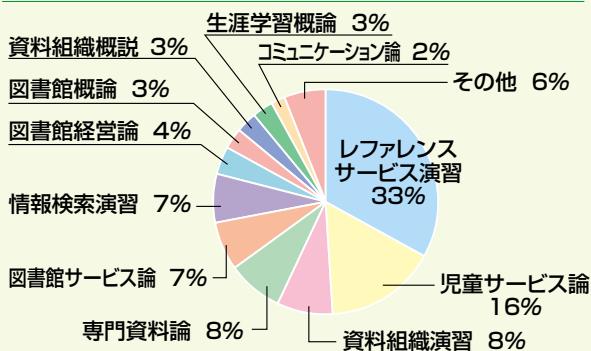
- 普通…通訳を介しての講演なので、臨場感が欠けた。  
特別講師の方が情熱的で、熱意が伝わった。
- 良かった…海外の図書館事情を知るいい機会になった。  
内容も良かったが、先生が素敵で良かった。
- 悪かった…内容が薄いと感じた。

### 感想

#### ●主な意見

- 今回の講習は得る事が多く、更なるスキルアップの為に有資格者向けの講座を受講したい。
- OA研修室をフリータイムで使用できて良かったが、PCは新しいものにした方が良いのでは？
- サブホールのプロジェクターが故障するトラブルがありましたが、事故にならず良かった。
- 図書館の設備にも驚いたが、レファレンスツールが充実していて感動した。
- PC初心者講習は基礎から丁寧に教えて頂き、大変役に立った。
- 猛暑の今年、講習を乗り切れたのは事務の方々、先生方、そして友人の存在が大きかったです。ありがとうございました。
- 毎日が非常に充実していました。今年の夏はいい経験ができました。

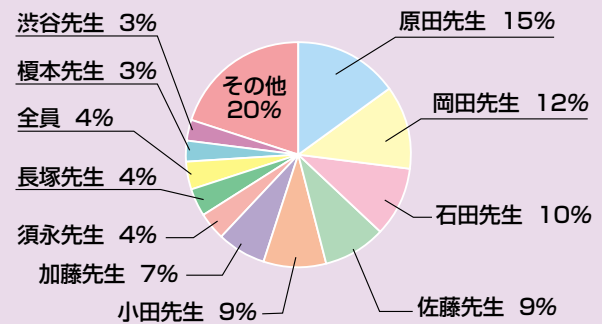
### 印象に残った科目（複数回答）



#### ●主な理由

- ◇レファレンスサービス演習…課題が多くハードな日々だったが、苦勞した分ためになった。
- ◇児童サービス論…実践的な話は貴重で、毎回授業が楽しかった。
- ◇資料組織演習…興味のある内容で、新しい知識を身につけることが出来た。
- ◇専門資料論…資料について違う視点から見ることができ、資料に対して興味が湧いた。

### 印象に残った講師（複数回答）



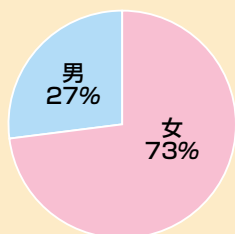
#### ●主な理由

- ◇原田先生…厳しい面もありましたが、丁寧に熱心な姿勢に感銘をうけた。
- ◇岡田先生…丁寧かつパワフルで楽しい授業で楽しかった。
- ◇石田先生…落語家のようにお話が上手で、授業に引き込まれた。
- ◇佐藤先生…現役の図書館員としての話が沢山聞け、学ぶことが多かった。

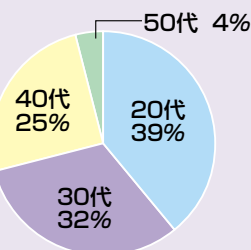
# アンケート

## ◆平成22年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=52名/56名)

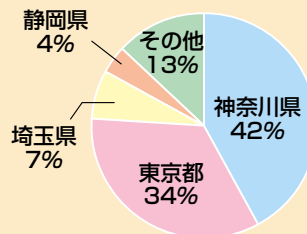
### 男女別データ



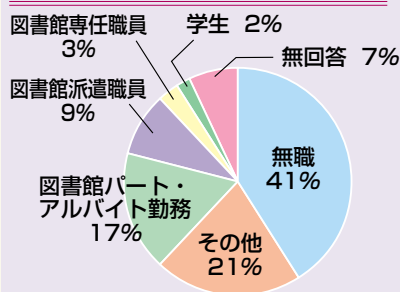
### 年齢別データ



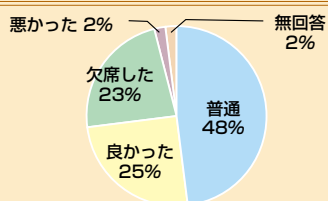
### 出身県別データ



### 職業別データ



### 特別講演会について

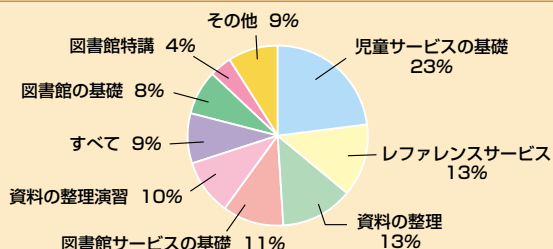


- 主な理由
- 普通…同時通訳によるものだと、講演者との距離を感じる。英語がもっと理解できたらなあと感じた。
  - 良かった…他国の図書館の状況を生で聞けたので、新鮮な気分だった。
  - 悪かった…進行が悪かった。

### 感想

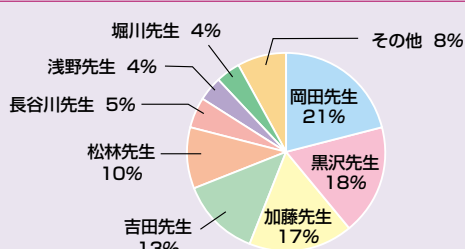
- 主な意見
- ・どの施設も綺麗で快適だった。特にトイレの清掃が行き届いていて気持ちよく利用できた。
  - ・冷房が効きすぎていたようで、寒かった。自販機に温かい飲み物がなくなって残念だった。
  - ・司書補はほんの入り口だと思うので、まだまだ学びたいと思った。
  - ・ここで学んだこと、ここでの出会いを大切に、次に活かしたいと思う。
  - ・図書館についての考え方が180度変わりました。受講して本当に良かったです。

### 印象に残った科目 (複数回答)



- 主な理由
- ◇児童サービスの基礎…現職講師の実践的な授業は、大変興味深く面白かった。
  - ◇レファレンスサービス…図書館での実技が楽しかった。
  - ◇資料の整理…先生の人柄が良く、楽しく学べました。
  - ◇図書館サービスの基礎…ノートを取るのに必死だった4日間でしたが、大変充実感がありました。

### 印象に残った先生 (複数回答)



- 主な理由
- ◇岡田先生…面白い会話と分かりやすい授業で、親しみやすい先生だった。
  - ◇黒沢先生…経験を語ってくださり、とても説得力があった。
  - ◇加藤先生…ユーモアあふれた講義で、図書館学への熱い思いを聞かせてもらった。
  - ◇吉田先生…今まで知らなかったレファレンスのことを、分かり易く教えていただいた。

## ■司書・司書補講習の歩み■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)の開講以来、今年で57年目を迎えました。この間、優秀な修了者を多数輩出し、多くの先生方によるご指導を受け、本学の講習は成長してまいりました。そして昭和38年には「一夏会」が発足し、この会報の由来ともなっております。また、平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。

施設面では、約60台のパソコンからなるOA研修室、74万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵し、学内外で高い評価を受けている図書館の使用など、密度の濃い実践的な講習を行っております。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了者を誇りにこれからも発展を続けてゆきます。

## 【司書・司書補講習受講生の皆様へ】

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。このアンケート結果を参考に今後もより良い講習にしてゆきたいと思えます。また、この一夏会報を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生方、受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れ様でした。